

2010年9月5日

風土かふえ Part3 in ふるさと西池まつり 報告書

風土-kazetsuchi-

■日時：平成22年8月29日（日）11時30分～14時00分

■場所：池袋第三小学校

■対象者：豊島区周辺の住民

■目的：風の人（外から来た人）と土の人（地元の人）たちとが気軽に集まれる意見交換や情報交流・情報提供の場を提供することによって、以下の4つの目標を達成する。

- ①地域内及び地域間でのつながりをつくる
- ②西池袋に関する情報発信を行う
- ③地元住民の人材活用の場とする
- ④世代を超えて地域について語れる場とする

上記の目標を達成することにより、西池袋の地域力を強化し、誰もが安心して暮らせるまちづくりを目指す。

■主催：NPO 風土-Kazetsuchi-、立教大学 ESD 研究センター、西池袋南町会、立教大学フェアトレードパートナー

■後援：豊島区、財団法人としま未来文化財団

■参加費：無料

■参加者：約70名

【実施概要】

風土かふえ第三弾は、西池袋住民の憩いの場ともなっている「ふるさと西池祭り」の一角を借りて、実施した。今回は、上記の目的・目標と併せて、風土かふえを地元住民に認知してもらい、まちの憩いの場として機能させることも目標とし、以下の3つの方法で行った。

① 西池語りの場

西池袋の魅力について語る場として、西池語りの場をテントの一角に設けた。当日はとても暑い一日だったので、かき氷を片手にかふえのテントの中で休憩がてら話をする親子連れや地元の方の姿が見られた。



かふえの様子

② エコクラフト(松ぼっくりを使ったミミズクづくり)

雑司ヶ谷伝承、鬼子母神のおみやげとしても知られ、豊島区の郷土玩具でもある「ススキのミミズク」にちなんだミミズクづくりを実施した。猛暑のため、材料のススキが見つからず、急遽松ぼっくりを使ったミミズクづくりを実施することになった。松ぼっくり、ひまわりの種、落ち葉など、家の近くを探せば簡単に見つけられる素材を使って工作を行った。講師は風土-kazetsuchi-スタッフのほか、西池袋南町会会員の白井氏、岸野氏、餅田氏にもご協力頂いた。

子どもだけの参加、親子連れの参加、孫を連れての参加等、さまざまな世代の方がミミズクづくりを楽しんでいた。「松ぼっくりを見たことがなかった」という話や、「自然素材を使った工作は初めて」という声、「世界に一つだけの自分の作品ができた!」という喜びの声などを聞き、自然素材を使ったクラフトづくりの重要性を認識することができた。また、親子での共同作業をすることによって、自然に関する親子の対話を深めるきっかけづくりも提供できたといえる。



ミミズクづくりの様子



松ぼっくりミミズクの完成品

③ まちチョコパッケージ募集

立教大学フェアトレードパートナーにご協力頂き、「西池袋がこんなまちになれば良いのになあ」というテーマで、フェアトレードチョコレートのパッケージデザインを来場者に描いてもらった。祭りに来ていた子どもたちとそのお母さんに描いてもらい、24枚のデ



まちチョコパッケージのデザインを描く子どもたち

ザイン画が集まった。デザイン画を書いてもらうことで、フェアトレードをより身近に感じてもらうことができた。参加した学生さんにとっても、「フェアトレード」という言葉を子どもたちに分かりやすく説明するにはどのようにすればよいのかを考えるきっかけとなったようだ。

【来場者の感想・成果】

- ・楽しく皆様の協力がすばらしい
- ・ミミズクづくりが楽しかったです。
- ・ミミズクが熱い接着剤で簡単に作れることが印象に残った。楽しかったです。有難うございました。
- ・一つの松ぼっくりがミミズクになり、いつも粗末にしていた物が子どもの目にとまり、すごく良かったです。参加して孫が喜んでくれてよかった。
- ・学校なので子どもたちが安心して参加できること。親切で楽しかったです。
- ・食べ物など以外にも子どもたちが遊べるところがいっぱいあって楽しかったです。

本イベントの目標である、①地域内でのつながりづくり、②郷土(豊島区)に関する情報発信、③地元住民の人材活用、④世代を超えて地域について語る場についての達成と、西池袋での風土かふえの認知度の向上をある程度実感することができた。